政務活動費 行政視察報告書

項目	内容
報告者	向日市議会議員　林 リエ（会派：明日の向日）
視察日	令和 8 年 11 月 19 日（木）
視察先	岡山県久米郡久米南町
視察項目	① デマンド交通「カッピーのりあい号」による移動・宅配サービスの取組 ② 久米南町役場・コミュニティセンター（2026 年度グッドデザイン賞、iF DESIGN AWARD 2026 受賞）
交通費	桂川〜久米南町（新幹線利用）往復　14,740 円
資料	久米南町総務企画課発行「おでかけ・宅配サービス 活用のしおり」、「デマンド交通 カッピーのりあい号」パンフレット

1. 視察目的

本市のコミュニティバスは、利用者数や収支率、夜間便の減便、民間路線バスの廃止など、多くの課題を抱えている 。高齢化が進むなかで、免許返納後の移動手段の確保や、買い物・通院の支援は今後さらに重要になる。久米南町は、予約制の乗合交通（デマンド交通）を「人」だけでなく「モノ」の輸送にも活用し、移動と生活支援を一体で進めている。私は本市へのオンデマンド交通の導入を目指しており、その仕組みと運用の工夫を学ぶことを第一の目的とした。あわせて、2026 年度に国内外のデザイン賞を受賞した同町の新しい役場庁舎を見て、開かれた庁舎・議会のあり方を学ぶことも目的とした。

2. 視察内容

（1）久米南町の公共交通の全体像

久米南町は、町民だれもが日常的に使える移動手段の確保と、地域の「ひと」と「モノ」の移動を支えることを目的に、複数の交通手段を組み合わせている。町内の移動はデマンド交通「カッピーのりあい号」と「混乗型スクールバス」が担い、町外へは JR 津山線、岡山桃太郎空港への空港乗合タクシー、町内のタクシー会社がつないでいる。混乗型スクールバスは、登録した小・中学生が利用し、空席があれば一般の人も乗車できる。町はこれらを「ひとやモノの交流を支える社会基盤」と位置づけ、将来にわたって維持するために町民に積極的な利用を呼びかけている。

（2）デマンド交通「カッピーのりあい号」（2016 年度運行開始、2020 年から AI 配車による現在の運行形態）

- **運行**：町内であればどこでも乗り降りできる。毎日運行（年末年始の 12/29〜1/3 は運休）で、平日 7:30〜18:30、土日祝 8:00〜17:00。4 人乗りまたは 7 人乗りの車両を使う。町外へは行けない。
- **運賃**：片道 1 乗車 300 円で、町内なら距離に関係なく均一料金。小学生、障害者手帳等の所持者とその介助者、生活保護受給者、おかやま愛カード保有者は半額、小学生未満は無料。
- **予約**：乗りたい日の前日から直前まで、電話（フリーダイヤル）かスマートフォンで予約する。スマートフォン予約は AI 配車システム（未来シェア社の「SAVS」）を使い、迎えの車の現在位置や到着予定をリアルタイムで確認できる。複数の人が乗り合うため、時間に余裕をもった利用を呼びかけている。定期予約やドライバーへの直接予約は受け付けず、その都度予約する。
- **事業規模と利用状況**：2016 年度に運行を始め、2020 年に AI 配車による現在の形となった。町は補助事業として年間約 4,700 万円を支出している。利用は年間約 18,000 件にのぼる。利用者は高齢者が中心だが、町外から訪れた人にも大変喜ばれており、私自身も視察で町を訪れた立場から、その便利さを実感した。

（3）「モノ」も運ぶ 4 つのサービス

のりあい号は人の移動に加え、車両の空きスペースを活かして次のサービスを行っている。

サービス	内容	料金
おでかけ	町内の好きな場所で乗り降りできる移動サービス	片道 300 円
宅配	登録店舗（弁当・パン・食料品・酒・衣料品・農具など 6 店舗）に電話で注文すると、指定の時刻・場所に届ける	1 ケース 300 円＋商品代
おすそわけ	家から家へ、野菜や作りすぎた料理、いただき物などを届ける	1 ケース 300 円
農産物出荷	収穫した野菜や果物を直売所「サンサンくめなん」へ代わりに出荷する（生産部会会員が対象、10〜15 時）	1 回 300 円

配達には保冷用のクーラーボックス型（5kg 以内）とコンテナ型（10kg 以内）の 2 種類のケースを使う。宅配に参加する店舗の登録は無料で、随時募集している。

（4）利用者・事業者の声（資料より）

- 地元商店は、これまで 3 千円以上の注文に限っていた配達を、商品 1 点から引き受けられるようになった。ドライバーの手配や設備投資をせずに、個人経営の店でも宅配を始められたという。
- 通院・薬局・買い物の 3 か所を回って 900 円（300 円×3 回）で用事を済ませる高齢の利用者や、週 3〜4 回利用する人の声が紹介されている。運転免許を返納した人の移動手段にもなっている。
- 家族からは「歩いて移動するときに転ばないか心配だったが、家から目的地まで送迎してくれるので安心」との声があった。

（5）久米南町役場・コミュニティセンター

2025 年に竣工した、役場と公民館の機能を集約した複合施設である（延床面積約 3,018㎡、鉄骨造一部木造）。建物の中心に広場を置き、庁舎・議会・公民館をつなぐ構成とした。町の象徴である議場は 1 階の広場の奥に配置され、ガラスのスライディングウォールで開放できる。2026 年 2 月に「iF DESIGN AWARD 2026」（公共建築部門）、同年 10 月に「2026 年度グッドデザイン賞」を受賞した。審査では、議場が芝生広場に面していて外から議会の様子が日常的に見えること、木と鉄のハイブリッド工法による温かみのある空間で、住民が立ち寄りやすいことが評価された。

3. 所感と本市への活用

（1）「人」と「モノ」を同じ車で運ぶ発想　久米南町の取組で最も印象に残ったのは、交通を「人を運ぶ手段」に限定せず、宅配・おすそわけ・農産物出荷まで同じ車両で担っている点である。空いている時間と空きスペースを活かすことで、交通事業の効率を上げながら、買い物支援、地元商店の販路拡大、農家の負担軽減を同時に実現している。交通政策を福祉・商業・農業とつなげて考える視点は、本市にも必要だと感じた。

（2）本市へのオンデマンド交通導入に向けて　本市はコンパクトな市域に鉄道駅が 5 つある一方、コミュニティバスの収支率や利用率には課題があり、夜間便の減便や民間路線バスの廃止も起きている。路線と時刻表に縛られる定時定路線のバスだけでは、免許返納後の高齢者や子育て世帯の「ちょっとした移動」に応えきれない。久米南町のように、予約に応じて走るオンデマンド交通を AI 配車で効率よく運行し、宅配などの機能も持たせる方式は、本市でも十分に検討する価値がある。久米南町の場合、年間補助額を利用件数で割ると 1 件あたり約 2,600 円の公費負担となる。本市で検討する際は、こうした 1 件あたりの費用と、移動を支えることで得られる福祉・商業面の効果をあわせて比べる必要がある。今後、導入費用や運行経費、既存のコミュニティバス・タクシー事業者との役割分担を調べ、一般質問や地域公共交通会議で導入を提案していきたい。

（3）地元商店と高齢者を支える仕組みとして　登録店舗が宅配を気軽に始められる仕組みは、商店の後継や地域の買い物環境を守ることにもつながる。本市でも免許返納後の高齢者の移動や、買い物が難しい世帯への支援は大きな課題である。宅配・おすそわけの仕組みは、交通とあわせて検討したい。

（4）開かれた庁舎と議会　久米南町の庁舎は、議場を建物の中心に置き、広場から議会の様子が見えるつくりになっていた。議会を住民の日常の中に置くという考え方は、建物の設計だけでなく、議会運営の姿勢そのものを表していると感じた。本市議会でも、傍聴しやすい環境づくりや傍聴者への資料提供など、市民に開かれた議会に向けた改善を提案していきたい。

以上